

9460

第一六一三號

	大臣
次官	
聯帶局部長	主務局部長
聯帶課長	主務課長
人事課長	主査課員
高級副官	主務副官
參事官	主査副官
受番	領號
密受才三五八号 (三年)	廳名 年増部
件	名
御殿山砲台建築之件 (D点)	提出 三十二年九月廿八日 執行 三十二年九月廿八日
指示令案	
伺之振別強修に要領、其より更に取調同出に	

閱

淨者
校合

科倉

[illegible]

五月三十日

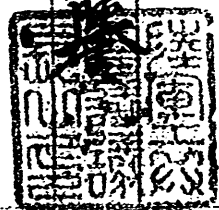


議秘甲第一八號

函館港防禦砲臺(砲臺(D点)建築之件覆申
密發第六四號ヲ以テ待詔詢相成及函館港防
禦砲臺山砲臺(D点)建築之儀密受費三五六
弍築城部本部長伺之件審議其處別紙修正
要領(修正図参照)如ク修正可然議決其間該図
書類相添此段及覆申也

明治三十一年五月廿三日

砲工兵合同會議長古川宣雄



陸軍大臣子爵桂太郎殿

陸軍工兵會議

函館港防禦御殿山砲台(D点)建築ニ関スル
修正要領(修正圖参照)

築城部設計ニ係ル本砲台ハ位置頗ル高クシテ敵彈ノ危害ヲ蒙ル比較的僅少ナルヲ以テ寧ロ之ヲ直接照準式砲台ニ編成シ以テ攻撃威力ヲ大ナラシムルヲ得策トス又砲台ノ兩翼異ニ設置セントスル司令所ハ仮令左右兩觀測機ニ藉ルモ猶ホ且ツ數ナカラサル欠視界ヲ生スルノ不利アリ其他掩蔽部材料庫及左翼補給庫ノ如キモ其編成繁雜ナルヲ免レス故ニ左記要領ノ如ク修正スルヲ要ス

一首線ヲ羅針子午線ニ對シ五十度トナシ砲台全体ヲ補

前方及右方ニ偏移シ火線ニ二百九十七米ノ標高ヲ附與ス

二九羽翼司令所ハ三百〇八米五〇ノ標高ヲ附與シ九羽翼砲車ノ旋回軸心ヨリ左方四十九米五〇後方五米五〇ニ置キ右羽翼司令所ハ之ヲ廢シ換エルニ砲台ノ前方ニ設クル砲台外司令所ヲ以テス該司令所ハ二百九十二米八〇ノ標高ヲ附與シ最遠即チ第一砲車ノ旋回軸心ヨリ左方約八十一米前方同、三百五十米ニ位置セシム而シテ砲台外司令所ニハ該觀測機制定ニ至ルマテ雷分式測遠機ヲ裝置スヘキモノトス又砲台内司令所附屬室ノ格頂ハ穹窿ヲ用ヒス軌鉄比噸ヨリ成ル平頂ヲ冠セシタベシ

三掩蔽部ハ材料庫壹個ヲ應用シテ成兵總負ノ約三分
 ノ二ヲ収容シ得ル如ク其面積ヲ増加シ猶ホ新ニ増設セ
 シ將校室ト共ニ之ヲ砲台ノ右方交通路ノ一側ニ設ク
 四材料並ニ備砲格納庫、監守衛舎、貯水所、柵門及厠園ハ
 更ニ適當ノ位置ニ撰定スルヲ要ス
 五本交通路ハ圖上ニ其附近ヨリ起リ適當ノ方向ニ開設
 シ砲台外司令所ニ至ル交通路ハ現存スル小徑ヲ適宜
 修築應用スヘシ

1860

軍工

番號三五八

築城部

本部送達

第五〇號

第五六號

御殿山砲臺建築之類二付伝

逐館港防備御殿山砲臺（D点）建築之類
別紙目錄之圖書、基ヲ建築看子致度
式相何水

明治三十年十二月十七日

築城部本部長石本新



陸軍大臣子爵高島鞆之助殿

築城部本部

目録

一 函館港防禦御殿山砲臺（D 臺）建築設計ノ要領

志 冊

一同

概要豫算書

志 冊

一回

図面

五 葉

築城部本部

4

次官

人事課長

高級副官

參下

主務局部長

聯帶局長

閱

工部分府

淨教

主查課員

主務副官

主務課長

聯帶課長

件

名

密多尔三上

函復陳少府山記

廳

執持

累年於

三十一
年
月

五坡港防禦所破山砲臺(D点)建築

碧玉金线、长、清、白、如、雪、

密發集六之五

五月四日

聖工云合同主紙二長、內主聚
 王彼漢珍御京漢政山（附錄）主此子家
 孫誠盡更牙三七〇〇聖休於本於長
 個、件諸伯二

但此急使係少有人且好試一月乃返
又へ

密發第 六 號

五月四日

議秘甲第一四號

函館港防衛殿山砲台(D点)建築之件覆申

昨年十二月密奏第一三九號ヲ以テ御詔詢相成及
函館港防衛殿山砲台(D点)建築之義築城
部亦部長伺之件審議其処別紙修正要領(修正
図参照)ノ如ク修正可然議決其間談図書類相
添ハ致般及覆申矣也

逐而砲兵會議ハ天体当會議修正要領ニ全
意セシモ低射界ノ射撃ヲ行ヒ得ル如ク胸牆ヲ修
正シ且ツ觀測所ハ一個トナシ之ヲ砲台ノ左翼前
標高三百九米ノ高地ニ移ス方可然ト議決其得

共當會議之同意セザルニ議決其間其般申
添美也

明治三十一年四月廿九日

工兵會議々長古川宣勝



陸軍大臣子爵桂太郎殿

函館港防禦御殿山砲臺(D点)建築ニ関スル工兵會議ニ

於ケル修正要領(修正圖参照)

築城部設計案中榴彈砲々座前方ニ於ケル三分一ノ除土斜面ハ背面ヨリスル敵ノ目視ニ對シ曝露スルノミナラス爰ニ落達スル彈丸ノ爲メニ土砂ヲ砲床ニ及跳セラル、ノ不利アルヘク又掩蔽部材料庫及左翼補給庫ノ如キモ其編成繁雜ナルヲ免レス故ニ左記要領ノ如ク修正スルヲ要ス

一 重砲々座ヲ少ク右方ニ偏移シ其標高ヲ二百九十二米ニ高昇ス

二 胸牆ハ火線高ニ準シ水平ニ截削ス

三 右方司令所ハ三百。四米五。ノ標高ヲ興ヘ右翼砲車ノ軸心ヨリ右方四十五米五。前方二十二米五。ニ左方司令所ハ三百

。八米五。ノ標高ヲ與ヘ左翼砲車ノ軸心ヨリ左方四十二米
五。後方七米五。ニ位置セシム

四 掩蔽部ハ材料庫一個ヲ應用シテ成兵銃負ノ約三分ノ二ヲ
収容シ得ル如ク其面積ヲ増加シ猶ホ新タニ増設セシ將校
室ト共ニ之ヲ右翼司令所ノ後方交通路ノ側ニ設ク

五 材料并備砲格納庫、監守衛舎、貯水所、柵門及廁圍ハ
更ニ適宜ノ位置ニ撰定スルヲ要ス

六 交通路ハ图上ノ点附近ヨリ起リ適當ノ方向ニ開設スル
ヲ要ス

6860



津書 校合	人事課長	高級副官	參事官	主務局部長	聯帶局部長	聯帶課長	廳名 築津部	提出 三十年五月	執行 三十年五月
------------------	-------------	-------------	------------	--------------	--------------	-------------	---------------	-----------------	-----------------



受領 密更牙三五八師

件名 津阪山砲臺工事ノ件

工五三三城ニ付、由内至ニ

お成者更牙三五八師 至彼迄防御不取

1660

陸軍大臣子爵桂太郎殿

親展

議秘甲第一四號

2660

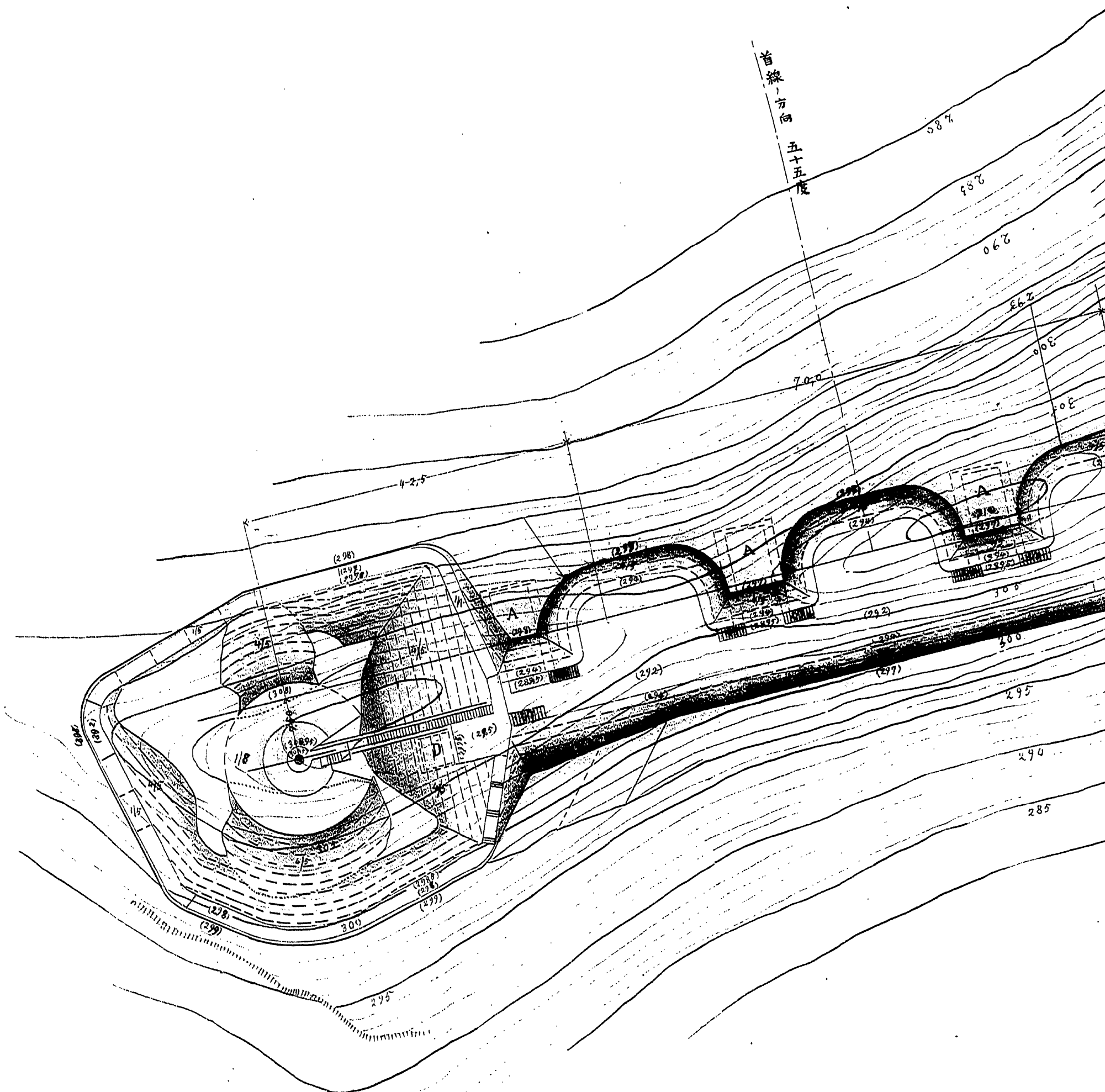
工兵會議長古川宣譽

分割撮影ターゲット

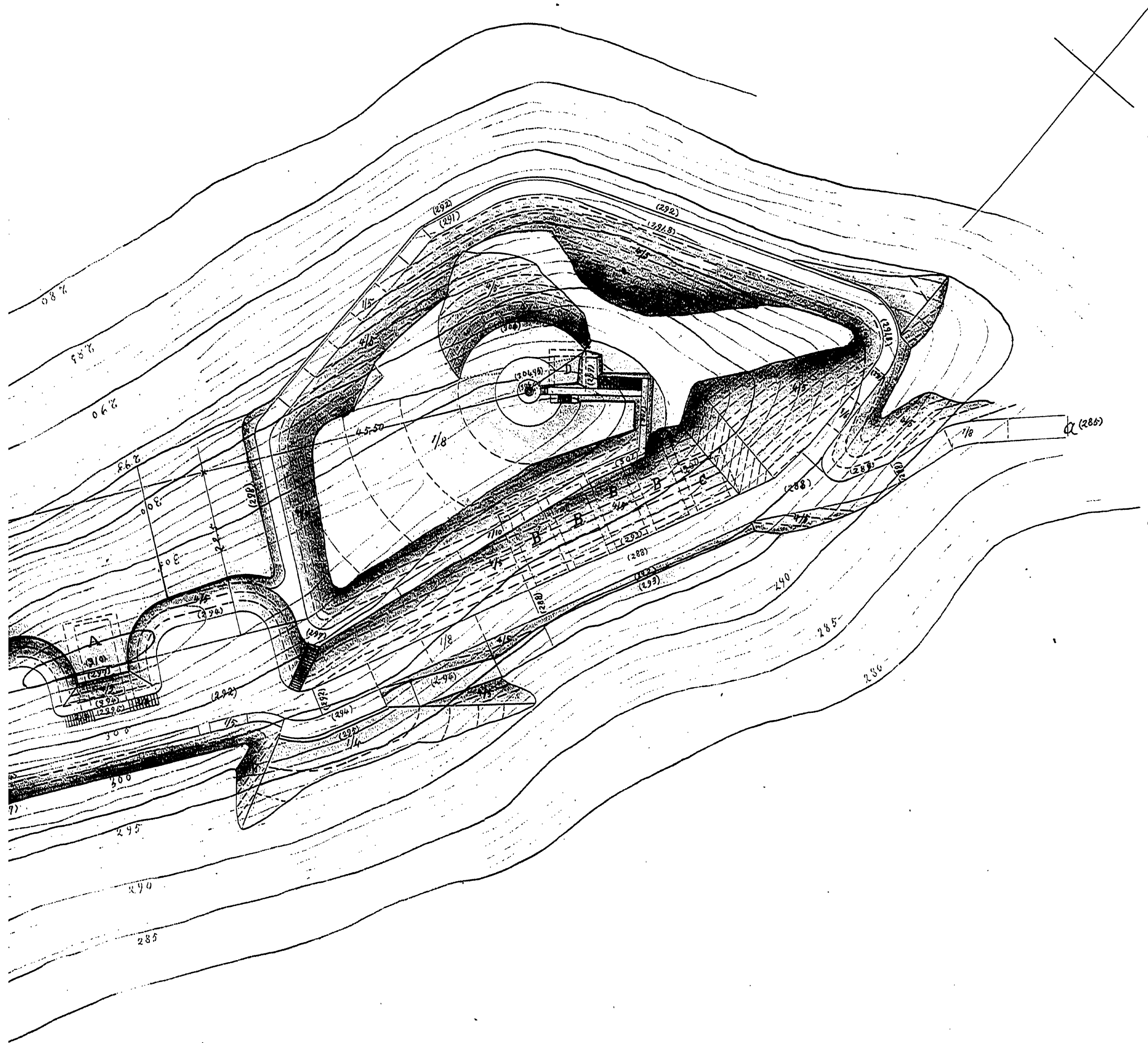
分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1"><tr><td>3</td></tr><tr><td>2</td></tr><tr><td>1</td></tr></table>	3	2	1
3				
2				
1				
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため			
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 7 年 9 月 13 日 主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 				

砲台修正之圖 五百分之一

陸軍工兵會議修正 0933



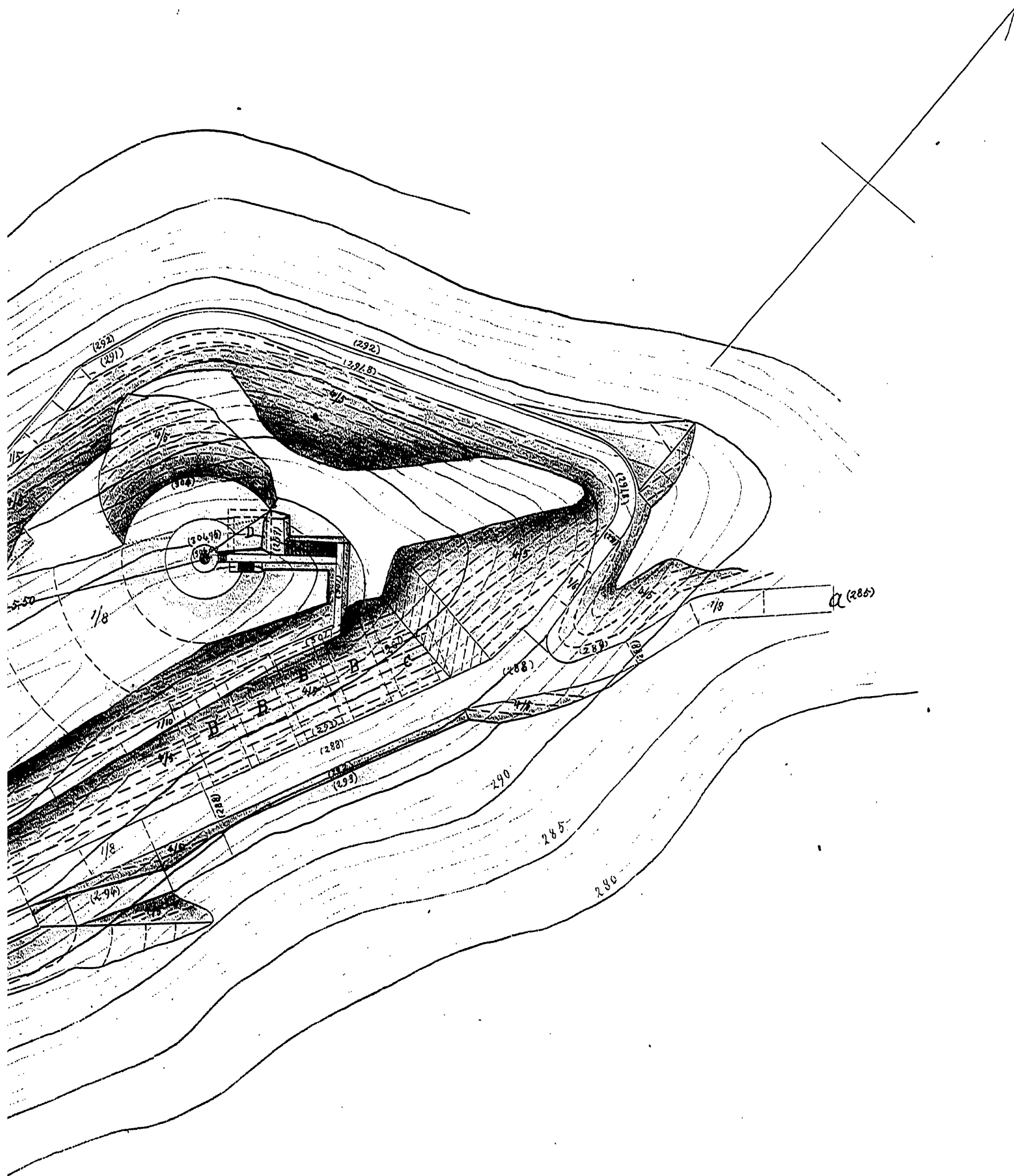
函館港防禦御殿山砲台



- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-----------------------|
| D | C | B | A |
| 附
属
室 | 将
校
室 | 材
料
庫 | 弾
薬
補
給
庫 |

0994

函館港防禦御



- | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------------------|
| D | C | B' | B | A |
| 附
属
室 | 将
校
室 | 材
料
庫 | 掩
蔽
部 | 彈
薬
補
給
庫 |

0995